

「だれもが安心して暮らせる大分県条例」づくりに寄せられた

アンケート・聴き取り 報告資料

だれもが安心して暮らせる大分県条例をつくる会

条例をつくる会は…

「だれもが安心して暮らせる大分県条例をつくる会」は平成23年6月4日、障がいがある人や家族を中心に、様々な立場の人たちやボランティアなど多くの方々の参加により結成されました。

大分県の特徴は…

条例はこれまで4道県で制定されていますが、県知事が進めた千葉県と熊本県、議会が推進した北海道、岩手県に比べると、大分県では障がいがある人や家族が中心になって取り組みを進めてきたことに特徴があります。

1000人以上のアンケート、200人の聴き取りの声が…

取り組みは「アンケート」から始まりました。用紙約6000枚を配布しました。回収された数は1000人を超えました。回答をいただいたかたの障がいの種類は多様で、寄せられた地域も県下全域に及びました。

アンケートに続いて、「聴き取り」を行いました。「アンケートでは書けない内容がある」、「アンケートを書けない人もいる」という声があったからです。アンケート集約期間を当初予定の平成24年3月から6月末まで延長して、直接声を聴く「聴き取り」に積極的に取り組み、合わせて13回、約200人の方から直接お話を伺いました。

一人ひとりの声が大分県条例づくりの出発点になっています。

アンケートについて

- 1, 実施期間 2011(平成23)年9月～2012(平成24)年6月
- 2, 対象 大分県内の障がい者及びその家族
- 3, 実施方法 会員・事業所等による手渡しで配布。郵送及び手渡しで回収。
- 4, 回答者数 1072人(本人532人 家族409人 本人・支援者119人 支援者58人 等)
- 5, 障がい別の内訳(各障害者手帳所持者数)
 - 知的障がい 245人
 - 身体障がい 409人
 - 精神障がい 125人
 - 2障がいあるいは3障がいの重複 114人
 - 手帳を持っていない 56人
 - 不明・その他 123人

「聴き取り」で寄せられた声から

平成24年7月「県条例をつくる会」第2回総会資料より

親の高齢化、親亡き後等

- ・重度で、風呂は私が入れているが、もし入浴中に私が倒れたら、子どもがどうなるか。
- ・この子より1日も長生きしたい。それはこの子に先に死んでもらいたいということになる。
- ・重度の子ども入院したとき、ベッドから落ちたりで危なく目が離せないのにヘルパーが利用できない。親は買い物にも着替え取りにも行けない。
- ・いざというときに選択肢が少ない。親のための制度を考えないと行き着いてしまう。緊急時以外でも、遊びも含めて、親子が離れられる制度が必要だ。
- ・この子も何かして人に喜ばれることができればと思う。
- ・どんなにできることが制限されても、人の手を使わせても、あの子の自立支援を含めた自立支援をしてほしい。

家族・親族・地域の理解

- ・しゅうとさんから息子のことを「うちの家系にはこんな子はおらん」と言われた。死にたいという位の気持ちになった。
- ・入所しており、小さい頃はよく外泊させていたが、歳を取り、本人も重くなって連れて帰れない。残念でかわいそうだ。
- ・障がいのある子を連れて帰った時に、子どもが声を出したり窓で遊んだりして音を出すと、2階から床を「ドン」とされる。
- ・子ども（入所中）を家に連れて帰りたい。私が亡くなったら、これから先、この子はどうなるだろうか（涙）
- ・子育ての段階で、奇声を上げるからいじめがあった。兄弟が、友だちが来た時に「隠しといて」と言った。

本人の思い

- ・小学校の時、移動教室に行けなくて、友だちから非難された。
- ・地域の学校に行きたかったがバリアのため行けなかった。（大学に行きたかったという声も）
- ・もっと外出したい。（プロ野球など見に行きたい…）
- ・家族以外の人とも外出したい。
- ・親亡き後のことは考えたことはない。親より自分が先に死ぬと思っている。

精神障がい（家族）

- ・一般の病院の医師が、統合失調症と言うと警戒感を持つ。別の病気で救急病院に行ったら、「ここは死ぬか生きるかのところ」と言っているのが聞こえた。精神科以外の科でも、医師の思いやりがほしい。

- ・一番心配なのは「親亡き後」のこと。兄弟は他人の始まり。いさかきも半分以上の家庭で起きている。
- ・発症した時、何もわからなくて闇に閉ざされたようにして、自分が自分を囲んでいた。苦は閉じ込めた。
- ・母75歳、子どもは一步も家からでない。私が倒れたらどうなるのか。
- ・事件か事故を起こせば警察が動いてくれるが、それ以前に手助けしてくれる公的な機関があれば。
- ・近所に隠すつもりはないが、理解してもらえないのではと思う。躁状態の時には人を傷つける。そしてうつになる。病気と言っても理解してもらえない。不安だらけ。どこにつながったらいいいのか。見に来てもらえるシステムがあれば。

アンケートで寄せられた声から

平成24年2月「アンケート報告会」資料より

障がいがある人と家族を中心にした「まとめチーム」がまとめた報告です。
2月の報告会以前に寄せられたアンケートにもとづいています。

●知的障がい

地 域

- ・育て方が悪い、テレビの見過ぎ、話しかけが足りない等々よく言われました。
- ・引越しの住居を探している時、大家さんのお嫁さんから障がい者がいるイコール危険と決めつけられた。
- ・外出時に奇異な目で見られる。特に迷惑をかけるようなことをしていない時でも珍しそうに見られたり、不愉快そうな顔をされる。
- ・車いす専用の駐車場が空いていない。(店の中には車いすの人はいないのに・・・)
- ・子どもが多動で近所の人から苦情があり、つらかった。
- ・子どもがパニックに入った時、大声、奇声を発した時などの冷たい視線やかたまった空気感がつらい。
- ・集団での外出で、昼食をお願いしたレストランで他のお客様に迷惑になるからと断られた。
- ・「障がいを持っている子とうちの子(同年齢の子)を遊ばせたくないから来られては困る」と言われました。

教育、福祉、医療関係

- ・幼稚園や保育園の受け入れ先がない。知的に問題のない障がいの理解はまだないようで、冷たい視線や言動で親が追いつめられる。
- ・地域の学校の担任から体罰を受けた。その後謝罪は受けたが子どもはクラスにいてだけで、声をかけてもらえず、ほったらかしにされた。
- ・子どもが2歳のころ、保育園の一時預かりに行っていた時、子どもの特性を伝え、様子を見ていきましょうと言っていたにも関わらず、給食の時間に園庭のすべり台の上で一人ぼっちで泣いていることもありました。運動会で座っていることができないという理由で部屋に残されていました。そして、保育園にいかなく

なりました。

*行事が嫌だったという意見も多くありました。

- ・病院を受診した時、Drに「躰ができていない」「じっとさせきらん親だ」と一喝された。
- ・学区の公立幼稚園から責任を負いかねますとの理由で断られ、私立に行ってはと言われたが、数か所断られました。
- ・いじめや嫌がらせを受けた。(本人からの訴えが多くありました)
- ・小学校入学前、障害児就学前相談の時、同席していた小児科の医師が「残念ですがIQは成長してもあまり変わりません。残念ですが息子さんは・・・残念ですが普通学級では・・・残念ですが・・・」わずか15分位の相談時間に「残念」という言葉を繰り返し言われた。

息子は残念な子ではない。

・施設通所していた頃に、担当職員の人から叩かれたり、ライターの火を身体に近づけようとしたりして、ずっと我慢してきました。困ったこと、嫌なこととして施設に申し出ましたが、僕が言ったことは信じてもらえませんでした。

家族、親族

- ・祖父母の誕生日に息子、娘に絵を描かせプレゼントした。飾ってくれたのは障がいのない娘の絵だけだった。
- ・身内から障がいのある子どもがいることを知られると困ると言われた。
- ・お父さんやおじいちゃんがなくなったことです(本人)
- ・3歳児検診で自閉的な問題があると言われ、主人からうちの家系にはないと言われた。

その他

- ・友だちが次々と結婚や幸せになるのがいやだった。自分の夢を実現させている友だちがうらやましかった。みんなが華やかに生きているのがつらかった。(本人)
- ・近所の自動販売機の火災事故があり、息子が販売機があると知っていると言ったら、疑われ、警察から2人来て調べられた。後で犯人が見つかり嫌な思いをした。
- ・同じように障がいを持った子どもの親から「ちゃんと小さい時から言い聞かせて育てないと」と言われ、いかにも躰が悪いと言いたげでした。

その時の気持ち

- ・息子をこのように産んでしまったことを自分で責めています。
- ・とても悲しい。人と話すことが怖くなった。障がいがある子を持ったがためにこんな差別を一生受けていかなければいけないのかと暗い気持ちになる。私たちはこの社会に必要とされているのでしょうか？
- ・なんで私だけと思いました。(いじめにあっていた本人から)
- ・情けないやら、悲しい気持ちがしました。特に母親が落ち込んでいました。
- ・生きることがいやになりました。
- ・困りました。相談するところがない、訴えても改善されない。
- ・ごめんね、という気持ちでした。(子どもに対して)

すべての事例を紹介できていませんが、特徴的な事例を中心に抜粋して報告させていただきました。事例の中には、アンケートを読みながら心が締め付けられるようなことや「どうして?そんなことをするの? (言

うの?)と理解し難い現実が迫ってきました。県条例ができる、できない関係なくすぐにでも様々な差別や障がい理由に体験する不条理な取り扱いを改善しなければいけないと思いを強くしました。差別を生みだしている背景に無理解や偏見など抽象的すぎて、自分達だけではどうしようもないことが多く、歯がゆい感情を抱きました。

さらに、障がいのある子を授かった保護者が今、不安な事、心配な事として親亡き後のことや施設やサービスの不足や余暇支援の資源の不足が挙げられています。知的障がいのある当事者や家族が望んでいることは、障がいのない人が普通に生活していればごくあたりまえの事に過ぎません。やはり、障がいのある人が普通のごくあたりまえの生活をするためには、地域の中に良き理解者がいることと合理的な配慮があたりまえにあることが欠かせません。

知的障がい班で注目したのは、障がいがあることで経験したいやな事、悲しくなった事、困った事をどう受け止めたのかということでした。アンケート結果では、“その時の気持ちは?”という質問項目によって引き出しています。いやな思いをさせられた人への嫌悪の気持よりもはるかに自分を責め、自己嫌悪に陥り、人間不信へと導かれています。それは、障がいを個人や生んだ親に責任を課している社会の問題だということをつえる必要があります。「自分に障がいがあるから悪いのだ」「障がいのある子を産んだ自分が悪いのだ」という気持ちにさせてきた社会が障がいを医学モデルとしてとらえてきたことに社会の歪みを感じずにはいられません。どうしても社会モデルとして障がいを捉え、社会で弱い立場の人たちを守っていく仕組みが必要だということを提言したいと思います。

アンケートの中に、精神発達遅滞の子の父親から条例に対してという設問にこんな思いを寄せてくれました。「誰かが負わなければいけない障がいを背負って我が家に生まれてくれた息子。出来ないこともあります。人間としての強さと優しさは私たちにはとても追いつけない力を持っています。“人間として何が大切か”を教えてくれるこの子たちが苦しんだり、自分を否定してしまうような思いをしなくてすむ、どんな人でも普通に、そして命を大切に考えられる社会になるような条例が出来るといいですね。」我が子への愛と自然体で穏やかな思いが伝わってきました。

アンケートに協力していただいた皆さん本当にありがとうございました。皆さんの意見や思いを条例だけでなく、だれもが安心して暮らせる社会づくりへつなげていきましょう。

● 身体障がい

アンケート総数	347件						
関係者別	本人(275) 配偶者(6) 父母(30) 兄弟(5) 祖父母(0) 支援者(20) 不明(11)						
男女別・年齢別	男性	10歳未満(2)	10代(7)	20代(17)	30代(22)	40代(24)	50代(37)
		60代(53)	70歳以上(31)	不明(1)			
	女性	10歳未満(2)	10代(2)	20代(12)	30代(10)	40代(14)	50代(16)
		60代(28)	70歳以上(25)	不明(0)			
	不明	10代(2)	20代(3)	30代(7)	40代(11)	50代(6)	60代(9)
		70歳以上(2)	不明(4)				

障がい特性別数	<p>肢体不自由【脊髄損傷(11) 頸椎損傷(9) 体感機能障害(8) 脳性マヒ(34) 脳性小児マヒ(7) ポリオ(2) 二分脊椎症(2) 脳血管障がい(15) 半身マヒ(2) 切断(5) リュウマチ(3) その他(36)】</p> <p>聴覚障がい (45) 視覚障がい (60) 視覚・聴覚重複(1) 脳性マヒ・視覚重複(1) 内部障害・視覚重複(1) 言語障がい (1) 内部障がい【腎臓 (4) 心臓(10) 呼吸器(1) 直腸(1) その他(2)】 難病【ウエルドニヒホフマン病 2 筋ジス 2 その他 1)】 ダウン症(1) パーキンソン病(1) もやもや病(1) 発達障がい(1) 知的障がい(4) 知的・身体重複(1) 精神病(9) 精神・身体重複(1) 精神・視覚重複(1) 高次脳機能障がい(9) 脊髄損傷・内部障がい重複(1) その他(11) 不明(40)</p>
住まい別数	<p>1.一人暮らし(77) 2.家族と同居(197) 3.グループホーム入居(6) 4.ケアホーム入居(6) 5.施設入所(43) 6.その他(9) 不明(9)</p>
日中の過ごし方別	<p>1.幼稚園・保育所(0) 2.小中高校(13)【普通学校 支援学級 支援学校(1)】 3.短大・大学・専門学校 (1) 4.一般就労(80) 5.福祉的就労(25) 6.施設通所(34) 7.施設入所 (42) 8.自宅(101) 9.その他(21) 不明 (30)</p>
①医療	<p>高熱で入院した時に、ベッドから車イスへ乗る際や、手伝ってほしいことを伝えても、「ちょっと待って下さい」と言われたまま、放置されたこと。 自分で何もできない事への劣等感。《30代男性・頸椎損傷による両上下肢機能マヒ》 [脳性まひ] として歳をとっていくと体のあちこちが痛くなる。《50代男性・脳性マヒ》 老後の生活で身体具体がどんなに変化していくか不安だ。《60代男性・骨髄炎》 病院の関係者の方に知ってほしいと思いました。《60代女性・全盲》 入院をしなければならない時、視覚障害者を受け入れてくれる病院があるのだろうか。 今は、人手不足のため、空きベッドが無いと言って、断られるのが心配です。</p>
②交通	<p>車イスの方と電車を利用した際に、下車しようとしたところ、ホームと電車を渡す板を持って来ていただくはずの駅員さんがきておらず、下車しなかった駅で降りる事ができませんでした。まさか駅員さんが来ていないとはおもいませんでしたのでごく焦りました。次に思ったのが、どこの駅で降りられるのか、終着駅まで降りられないではないかと不安になりました。今の公共交通機関が衰退していかないか不安です(JR・バス) 《30代女性(支援者)・ウエルドニヒホフマン病》。 公共バスに乗っていたときの出来事です。 車椅子の方がバス停で待っていました。バスが止まり、運転手がスロープを出して、車椅子の方を支援していました。それを見ていた年配の男性が何も手伝わることなく「早く。」とせかしました。さらに、近くに乗っていた女性が携帯を取り出して、「今バスが遅くて…」と大きな声で話をし出しました。乗ろうとしていた車椅子の方は申し訳なさそうな表情をされていて、悲しい気持ちになりました。《20代(支援者)女性》 バスのメジロンカードが出来る前、障害者手帳を本人かどうか疑われ(顔写真が付いているのに)嫌な気持ちになった。更に運転手がマイクを通して言われとても恥ずかしかった。《50代女性・関節リュウマチ》 外出したいのに段差があるところが多い。予約しないとバスに乗れない。 タクシーで車いすを乗せてくれない事がある。</p>

	<p>雨の日に普通の一般タクシーを呼んだら、アシスト付きの車いすのため、重量が重たいからと乗車を拒否されたことがある。雨の日だし困ったのももちろんだが、それよりもくやしい気持ちでいっぱいだった。《50代男性・両下肢機能障がい》</p>
	<p>雨の中で車いすの自分を見てタクシーの乗車拒否が相次ぎ悲しかった《50代女性・脊損》</p>
	<p>外出の際、駐車場が遠くて困った。</p>
	<p>駐車場で障害者用駐車確保と「車いすの方（のみ）専用駐車場」との表示の改善が必要だと思う。</p>
	<p>歩車道の区別が無さ過ぎる。《60代男性・全盲》</p>
	<p>道路をなるべく平らにしてほしい。《60代女性・脳性マヒ》</p>
	<p>父（78歳）がまだ車の運転をしているのがとても不安です。強引に免許を取り上げるわけにもいかないけど、視野も狭くなっているはずなので、事故にならないか心配ですが、バス停が近くになく、便もあまりないので、行動範囲が狭くなるのも心配です。 《70歳以上両親(子供)》</p>
③福祉	<p>盲導犬を1頭でも多く利用（活用させて？）してほしい。《60代男性・糖尿病性網膜症》</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物をするにも歩いていける店がない。外に出るにもヘルパーさんなどの介助者の助けがいる。 ・住宅の階段のところにものを置かないでほしい。 ・通路での井戸端会議は他の所ですて欲しい。 ・地方の田舎のどんな道にも点字ブロックをしっかり作ってほしい。 ・コンビニの前に点字ブロックがないので企業の方にも考えてもらいたい。 <p>《20代女性・未熟児網膜症》</p>
	<p>介護通所サービスのサポートの改善やリハビリ病院（入院・外来）や通所介護サービスでの先進療法を取り入れるなどの見直しを希望。《60代男性・脳梗塞》</p>
	<p>高齢になった際に自分がして欲しい介護サービスが受けられるかどうか心配。大分県内どこにいても同じサービスが受けられるようにしてほしい。</p>
	<p>施設生活をしているので特にはありません。この施設で安心してくらせる事が一番の幸せです。《60代・脳性まひ》</p>
	<p>健常者でも、いつ事故などにより、障がい者の立場になるのかもしれない。故に「障がい者の為」々という考えはなくし、「今は障がい者ではないが」という気持ちを持って、安心して暮らせる大分県になってほしい。《60代男性・内部障がい》</p>
	<p>私の日常生活はほとんど介護を母親(77歳)にしてもらっています。でも入浴だけはヘルパーさんにしてもらっています。しかし、そのヘルパーさんの中には、入浴する時間になっても来なかったり、急な用事があるため「明日、おフロに入れて下さい」と。事業所の方に電話をしたところ、「明日は誰もいません。そっちの方で勝手に入って下さい」といわれ、ヘルパーさんは来ませんでした。私は、こんな事業所にはおれなれないと思い、その代表者でもある理事長という方に理由をいって止めることなどを伝えたところ、その事業所で営業している福祉タクシーに、「止めるのであれば福祉タクシーに乗せてあげません」と言われたのですが、今までのヘルパーの対応を考えると、とても不安になることを思い、止めることを決意しました。</p>

④労働	<p>仕事の会議で、(手話)通訳なしで参加させられたこと。言ってることがわからないので、座っているだけで苦痛でした。終わった後に説明してもらったけど、出席した意味は一体…と感じます。また出席の意味がないと断ったのですが、聞いてもらえませんでした。(最近)《20代女性・難聴》</p>
	<p>仕事に関係ある研修会に出かけることが度々だが、点字の資料は殆どの場合期待できないので困っている。</p>
	<p>先天性のため、幼い頃からいじめられたり、歩き方が変だと言われたりして生きてきました。それに、障がい表立って分かる方ではないので周りの理解を得られず、とても苦しい思いをしてきました。疲れやすいのですが、自分の性格が明るい方なので甘えているように見られるのではないかと感じ、仕事中でも口に出しがたく、大変な思いをしています。《20代女性・脳性マヒ》</p>
	<p>今通っている作業所が楽しくて、一人で家に閉じこもっている時に比べて、毎日が生き生きと暮らせます。病気になった時よりも前向きに明るく暮らせます。《50代女性・関節リュウマチ》</p>
	<p>関節リュウマチで痛みと障害で職場を辞めた。《60代女性・間接リュウマチ》</p>
⑤教育	<p>昔聾学校の教え方に問題があったので、やむを得ず普通小学校に転校したが、コミュニケーションや教員が言う事(教え)も全然わからないまま将来のことを考えて再び聾学校に転校されて明るく文章力が少しずつ成長したから、聞こえない子どもは聾学校に入った方がいいですよ。自立できやすいと思う。《40代男性・先天性 聾》</p>
	<p>無視される事が一番悲しい事で子どもたちに徹底した福祉教育を受けさせて思いやりのある人に育ててほしい。《50代男性・脊髄損傷》</p>
	<p>ある集会で母親が子どもに「物を残すとバチが当たって目がつぶれるよ」と注意していて偏見がまだあると思った。《60代男性(家族)・視力障がい》</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校時代から障害者教育を徹底して欲しい。 ・障害者を普通校に晴眼者と同等に通学させることで子供の頃から障害者理解が進むように制度化して欲しい。
⑥所得・金銭	<p>賃貸住宅での借家住まいで将来が不安。</p>
	<p>ショートステイを3日間利用したが個人負担額がいささか高い。《60代男性・脳梗塞》</p>
	<p>障害サービスから介護サービスに移行すると利用料金が増え、サービスも減ってしまうので、同様なサービスが継続出来るようにしてほしい。</p>
	<p>今後の生活(病気の進行で)年金だけでやっていけるのか心配。 《60代女性・関節リュウマチ》</p>
	<p>障がいを持ちながら健康な人に負けないで働いて来たこと。それからはゆっくり温泉旅行でもしたいが旅費がない。《70歳以上・左大腿切断》</p>
⑦一般サービス	<p>聴覚障がいを持っていて本人確認が電話でないとダメだと言われることがあること(カード解約、契約など)。《20代男性・両感音性難聴》</p>
	<p>市役所、郵便局、銀行に行って代筆をたのんでもことわられたことがあった。なんで書いてくれないのに困ったなあ前は書いてくれていたのに、融通のきく人ときかない人がいる。《40代女性・視力障害、難聴障害》</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・公的機関や病院、商店街などのホームページにも視覚障害者への配慮をお願いしたい。

	<p>郵便局、セブンイレブン、大分銀行の一部の支店のATMには音声対応の機種を設置しているが、その他の金融機関のATMの音声化を基本機種にして欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 金融機関で、本人が署名しなければどうしてもいけない事。見えない者には、無理です。総合病院などに受診したくても一人では無理ですし、ヘルパーさんをお願いするにも早めをお願いしなくてはなりません。できれば、受付でお願いすれば手助けして下さるようなシステムができれば助かります。 公共施設やそれに順ずる施設設備をユニバーサルデザインとするように条令で定めてもらいたい。
	<p>車で連れて行ってもらった時、ここは車イスの方なので停めてはいけなと、断られた。トイレの水の出し方が所によって、まちまちなので困る。</p> <p>声を掛けてくれるのは、ありがたいが、誰かがわからないので、必ず名前を言ってほしい。《70歳以上男性・視力障がい》</p>
	<p>今は一人で、家事は一人で何とか出来るけど将来は助けがいるようになるのではないかと不安。まだ和式トイレしかないところがあり和式は使用できないものにとっては不便です。《50代女性・変形性関節症》</p>
	<p>車いすの人が利用できる障害者用のトイレをもっと作ってほしい。</p>
	<p>店舗1階には車いすが出入りしやすいスロープの設置を。《50代男性・頸髄損傷》</p>
	<p>買い物に行った時、店に自由に使える車いすが設置されていれば、もっと楽しく楽に買い物出来ます。店の通路等のスペースも広いと買い物がしやすくて良いです。</p>
	<p>現在4階建のマンションに住んでいてエレベータもなく4階までの上がり降りが大変で、高齢化もすすみ今後の課題になると思う。《60代男性・脳梗塞》</p>
⑧人間関係	<p>僕の耳が聞こえないからいじめられたことがあります。《60代男性・ろう1級》</p>
	<p>脳性まひで子どもたちからじろじろ見られ、小さい時、時々バカにされ嫌な気持ちになり悔しかった。《50代男性・脳性マヒ》</p>
	<p>車イスで買い物をしている私に対し、子供が「ママ、変なものがある」と大声で、親に呼びかけ、それに対して親は何も言わず、そのまま立ち去って行った。</p> <p>非常にくやしかった。自ら望んでこの体になったわけではない。</p> <p>他人の気持ちがわからない子供、それに対し何も言わない親に怒りを感じた。</p> <p>《30代男性・脊椎損傷》</p>
	<p>病院で車イスの私がヤケドの治療をしたら、他の親子がいて子どもが見てた。親の方が「悪い事、言うこと聞かなかつたらああなる(車イス)」と言われた。</p> <p>好きで障がい者になったわけではなく、運悪く車イス生活になっただけのことである。</p> <p>《50代女性・脊髄損傷(下半身マヒ)》</p>
	<p>私が生まれた時、母が「目が悪いのはあなたの家系では？」と言われたり、多くの人が集まる場所では私を隠しておくように言われた事。母がつらそうに語った。</p> <p>《30代女性・視覚障がい》</p>
	<p>【悲しいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> めくら呼ばわりされたこと。 大人同士でありながら目下の者でもあるかのようなぞんざいな言葉使いをされたこと。 墨字の読み書きや移動など視覚障害があるためにできないことから全てが劣っているかのように、一段低い者であるかのごとく扱われること。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ ぞんざいな扱い。例えばバスなどで席を譲ったり教えたりするのに言葉掛けではなく腕を強く引っ張って空席へ連れていかれたため危うく転倒するところだった。 ・ 視力障害者に対して、まともに見てもらえない、偏見なイヤな気持ち。 <p>【嬉しいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行中（もちろん白い杖を使って）優しく声をかけてくださる方に恵まれていて、目や手を貸してもらえること。本当にうれしい限り、中途失明者にとって格別です。 ・ 寄付をしたとき点字で領収証を書いてくれたこと。 ・ 子育て中周りの人が親や子供に温かく接してくれた。例えばPTAなどに同行してくれたり公園に遊びに連れていってくれたりなど。 ・ かかりつけ薬局の方が薬の区別が判りやすいように袋に切り込みを入れて朝・昼・晩の袋を触って簡単に区別できるようになった。心づかいがありがたい。 ・ ボランティアによる点訳サービスによる資料を使ってケアプランを立てるなどの仕事ができること。 ・ 点字図書館の理解ある職員の援助でケアマネージャーの試験に合格できたり、資料がより理解できるよう親身になってサポートして下さったこと。
	<p>隣のおばさんから、「あなたは透析しているそうですね。いつから、痛いのかえ、血を入れ替えるそうですね」と色々聞かれ、数日後、近所の人から同じようなことを何度も聞かれ、悲しいやらほっとするやらでした。近所の人に知られることは仕方がないとの気持ちもあったが、いざ知られたことで安心するやら、悲しいやらでした。</p> <p>《70歳以上男性・慢性腎不全》</p>
	<p>障害者が障害者を差別する事もあると思います。それは忘れてはならないと思います。</p> <p>《30代男性・脳性マヒ》</p>
◎行政	<p>医療の無料化や訪問サービスの無料、年金だけではきついです。今は安心では暮らせません。《60代男性・右ひざ関節機能著障》</p>
	<p>別府市の障害者福祉行政は進んでいると思いますが、なお一層の見直しを希望します。例えば電気代、水道代、車検、タクシー代、通所介護負担代などの大幅な支援策、また固定資産税の減免も希望します。《60代男性・脳梗塞》</p>
	<p>バリアフリーにしても資金援助でもっと簡単なシステムにして欲しい（事務知識や規則が多すぎます）。必要な時にすぐヘルプしてくれるシステムにして欲しい。</p> <p>視力障害で一人の時に火事や地震があったらどうしよう。見知らぬ人の訪問も困ります。この先、一人になったときに怖いです。《60代男性・視力障がい》</p>
	<p>これからの生活。なぜか、不安になりかけると胸が苦しくなる。一人暮らしをする時の支援。</p> <p>地元での生活。《40代・右上下肢マヒ》</p>
	<p>現在の行政福祉サービスは障害者が申請しなければ受けられないことが多いです。市町村担当課、民生委員、身体障害者相談員、からの福祉サービスの積極的な案内を。</p>
⑩その他	<p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事場で友達ができたり忘年会に参加できるのが嬉しい。《20代女性・未熟児網膜症》 ・ 障がいがあることで多くの人達と関われる（ことが嬉しい）《20代男性・脳性マヒ》 ・ 高かったり、遠かったりで、手が届かない所にある物を健常者にとってもらえた事。（嬉しかった事）《30代男性・脊椎損傷》

- ろうであることを認めてもらえない、コミュニケーションをとれないという苦しさを、これから何度けいけんしていかなければいけないのかと思うと疲れを感じます。
- コミュニケーションがとれないことが一番大変なことなので、集団でもコミュニケーションがとれたり楽しくしゃべれたりすると、やっぱり話せるっていいなあと思います。《20代女性・難聴》
- 車イスの方と一緒にエレベータを利用した際に、開くボタンを押して下さったり、誘導していただいたとき、嬉しかったです。その気遣いとちょっとしたコミュニケーションがとれた気がして嬉しかったです。《30代女性（支援者）・ウエルドニヒホフマン病》
- 電話の時は、言語障害を持っているので言葉が分かりにくく、困ったことがありました。少し落ち込みましたが、でも仕方ないなあと思いました。それも運命と思います。《20代男性・脳性マヒ》
- 家庭生活以外、外出時、外出場所でのこと。人と接する際、人（相手）が外見だけを見て判断し、言葉遣いなどを幼児語で語ってくる。耳が聞こえ難いことから…物の音や人の声の質などは分かるのですが、話している言葉の調子やスピード、距離などによって聞こえ難いので、話の内容がつかめないまま終わってしまうこと。あとマイクなどを通した声などが聞こえ難い。耳が聞こえ難いことや言語障害があるため人との会話に間が空いてしまったり、返答が遅れたりするため、電話での会話も一方的になってしまうことがある（相手）。《40代女性・脳性小児マヒ》

【災害・要援護】

- 自然災害時の避難《50代女性・網膜色素変性症》
- 日本列島どこでも起こりうる、自然災害。もし、よぎなく避難生活になったら、障害者は避難所の片隅か、避難所を別に配慮願えたらと思います。

●精神障がい

精神障がい者のアンケートを分析した結果、地域で暮らし悩んでいる現実や、身内や地域からの差別や偏見、社会からの無理解といった様々な課題が、本人や家族から多数挙げられた。

アンケートにご協力いただいた方は、総数154名である。その内訳は、本人からのご意見が104名、ご家族（親、配偶者、兄弟）が43名、その他（支援者や不明）が7名であった。

居住スタイルを見ると、家族との同居がもっとも多く60%、その他（グループホームや施設入所）が30%、一人暮らしが10%となっている。この結果に関して分析チームから、「病院に入院している方の声が拾われてないので、その方々の声も今後は検討する必要があるのではないか」といった意見が出された。

また、このアンケートを分析するにあたり、私たちが特に注目したのは、「アンケートの内容を公表してもよいですか」といった問いに対して、154名中92名（59.7%）の方が公表不可とした。半数以上の方が不可とした結果は、精神障がいの方が、地域や社会で差別や偏見と戦いながら孤立をされている様子と生活のしづらさの課題が垣間見えるものとなった。

以上を踏まえ私たちは、①所得・金銭課題②教育課題③医療課題④福祉・人間関係・一般サービス課題⑤労働課題の5点からこのアンケートを分析した。

①所得・金銭課題

1. 親亡き後の生活、老後の生活に不安を感じている。
2. 障害年金を受給できるようになってホッとした。
3. 障害年金が少なくて暮らしていけない。障害年金を増やしてほしい。
・節約のため新聞購読と隣保班をやめた。精神障害者の医療費が無料になるように願っている。
4. 体調が不安定で就労もままならないし、作業所の工賃が非常に安い。
5. 家族の負担も大きい。
・父親から「医療費がかかりすぎる」と言われる。
6. 金銭管理、財産管理がうまくできない。
7. 病気の弱みにつけ入る人がいる。

またこれらに金銭に関わる課題として

1. 精神障がい者の県内バス運賃を他障がい者と同様半額にすべきだ。
・クリニックのデイケアに通いたいのが交通費がままならない。精神障がい者もぜひ交通費を半額にしてください。

②教育課題

精神疾患は10代の思春期に発病が多いと言われています。そこで必要なことは、教育現場での取り組みです。心の病、精神障がいについて小・中・高校生の頃から正しい知識を持つことは、偏見や差別を持たないことにつながり、予防や早期治療にも結びつきます。また、職員、保護者の研修の必要性を指摘する声もありました。若い年齢から誰もがなり得る病気と知って精神疾患に関して正しい知識を学び深めていくことは、自分自身や家族が当事者になった場合、正しく迅速な対応を可能にし、また周りで病気に苦しむ人に対して思いやりをもつことができる心を養うことへとつながるのではないかと思います。

③医療課題

感想・課題

1. 緊急時の救急医療体制の整備
・精神科の病状が急に悪化した時、病院の外来でできない時間では家族のみで抱えることがほとんど
2. 早期受診・早期治療を促すための体制整備
・発病したとき中学生だったが、校医、県病、内科を受診したが誰も統合失調症だと断定してくれなかった。高校になり心療内科クリニックに行ったが精神科に早く行ったほうがよいと言ってくれなかった。
3. 初診時の十分な説明と最適な治療の提供
4. 利用者中心の医療の実現
5. 本人、家族のための訪問型の治療サービスの実現
6. 家族自身の身体・精神的健康の保障
7. 確実な治療を継続できるようなサポート体制
8. チーム医療の充実
・妊娠し産婦人科を受診したが統合失調症で服薬治療中と伝えると他を受診してくださいと言われた。

④福祉・人間関係・一般サービス課題

1. 身近な地域（小学校区や中学校区範囲）での支援が必要⇒具体的には

- 地域包括支援センターに障がい者担当ワーカーを社会福祉士や精神保健福祉士を常駐させて欲しい。
 - ・精神障がい者は目に見えにくいので自分から言わないといけない。民生委員や支援センターの方に定期的に声かけしてもらいたい。困った時にSOSが出せるか心配
- 保健所と連携を取りながら訪問、相談支援をすれば、当事者や家族にきめ細やかな支援が届けられると思う。
- 地域に障がい者だけが交流するのではない「ふれあいスペース」や「居場所」があるとよい
 - ・地域に一般の人と一緒に過ごせる居場所が欲しい
- 2. 一般のサービスであっても、企業の心がけや、職員への指導で改選できると思う
 - ・市の施設の受付で手帳を見せてから、対応がひどくなった。悲しかった
 - ・ハローワークで担当者に「夜のバイトしかありませんね」と言われて悲しくなった。

⑤労働

1. 社会に偏見があり、障がいをopenにすることで、就職ができないことがある。そのため、就職活動をする際、openにするかcloseにするか悩む。
2. 就労場所が少ない
 - ・障害者の働く場所が少ない。ましては精神障がい者の就労場所がない現実を知りました。
3. 職場での理解が少ない。
 - ・会社から退職届けを出してくれと言われた。
 - ・以前勤めていた会社の記念パーティーに招待状がこなかった。後で会社より電話があり、知名人が多数出席するので招待状を出せなかったと言われた。

以上の分析視点に意見をもとに、まとめていく。まとめでは①本人②周りの人③社会・環境の3点で総括する。

一つ目の「個人」に対して感じることは、多くの人が「将来についての不安」を持っていることである。特に多かった意見は、当事者の親御さんが他界することで、現在の生活基盤や経済的基盤をどのように維持していくかが非常に不透明であるとのこと。経済面においては、年金だけでは生活できない、医療費が精神疾患の場合、精神保健福祉手帳1級以外の人には「障害者医療の助成」を受けることができず、さらに精神病床への入院は適応できない。またバスの料金が半額にならないといった制度に関する苦しさを訴える声が挙がった。

二つ目は「周りの人」である。大多数の方は、人と関わることで生活している。そこで「病気のことが理解されなく悲しく思った」といった意見が多かった半面、「病気のことを理解してくれてうれしかった」との意見も同じようにあった。端的に指摘すると、周りの人の「理解」が当事者や家族の精神的な大きなサポートとなり、「無理解」が苦しめているとの結果になった。このことは、周りの人への教育及び啓発活動の必要性を如実に表している。若いころから、教育の中に精神疾患についての学びの場を設け、さらに社会でも、企業や地域で啓発活動を行うことで、当事者や家族に対する偏見や差別の「目」を減らしていくことが重要である。

三つ目は、「社会・環境」である。当事者や家族が生活する際、病院をはじめ、支援機関、一般企業3等様々な場所を利用して暮らしている。今回のアンケートで、少なからず様々な施設を利用するのに悲しい出来事や、厳しい言葉を受けた人がいることが明らかになった。様々な場所が、当事者や家族を受け入れる体制が整えば、きっと多くの人が不安を持たずに積極的に外に出かけ、多数の経験や交流が可能となるのではないだろうか。

以上のことから、何か一つが変わっても、全体が良い方向に向かわなければみんなが住みやすい社会の実現は困難であると思われます。この条例を機会に、たくさんの方が関わり、多様な分野で連携していくことがこの現状を打破するためには必要なことであると私たち分析チームは考えました。

精神障がいの場合、見た目で分かりにくいといった意見や、疾患に対しての周りの人の理解がまだまだ進んでいないといった現状から、それにより当事者や家族の生活のしずらさが浮き彫りになった結果であった。少しでも条例により改善に取り組める個所は前向きに様々な方面から取り組んでいただき、少しでも早く、多くの方が地域で生活がしやすい社会になることを望みます。

● 発達障がい

—自閉症スペクトラム障がい／発達障がい 差別・困難事例中間まとめ

1. 回答者

- 1) 本人 6件 (20代2 30代2 50代2)
- 2) 保護者・家族 49件
 - ・本人年齢 10歳未満 13件 10代 29件 20代・30代 4件 40歳以上 3件
- 3) 支援者 1件

2. 本人からの訴えの特徴

- ・孤独感、将来への不安、就労、家族との関係、福祉の対応
- ◎様々な場面で障がいへの理解不足への不安・不満

3. 保護者・家族からの訴え

1) 無理解に起因する心理的苦痛

①外見からただちに障がい児とわからないなど障害があることへの無理解

医療者：「躰ができていない」、「親の責任」、「ちゃんとそれなりの病院に行っていますか？」

学校（普通校）：いじめで不登校になった。担任から「親の躰が悪い」

行政（警察）：行方不明になり保護されたとき全裸で脱水状態 ケアがなかった。

一般人

集合住宅の階下の住人 子どもの出す音への苦情、嫌味。

母親に同伴され泣きながらも頑張って登校する子供を見て、孫に「恥ずかしいね。

あんなお兄ちゃんみたいになったらダメだよ。おかしいねえ」と言い続けた老人

パニックになると、気持ち悪そうに見ながらあからさまに避けて通られたことが何度

もある。

奇声を発したり場にそぐわない言動に、にらまれたり、注意されたりした。

②障害の性質の無理解・偏見

⇒ 拒否反応、不適切な対応、合理的配慮の欠如

幼稚園：家の中の問題なので家族で解決してください。と

普通学校の教員：子どもの話を聞こうとしない

行政：窓口の冷たい対応

近隣：ラジオ体操や子供会などの行事に参加しないと非難めいたことを言われる。

2) 「違い」に起因する心理的苦痛

① 「障がい児」であることへの差別的対応

身内

「障がいのある子どもがいることを知られると困る」

「なぜわざわざ障がいがあると親族に言わなければいけないのか」と同居の義母

近隣

障がいがわかるとあまり声をかけてくれなくなった。

小さな子どもたちが怖がったりよけて道を通る行為があった。

「そんな障がいを持っている子とうちの子（同い年）を遊ばせたくないから、うちに来られては困る」と

「あそこには妙な子が生まれた」との噂

他人の視線

ひそひそ話、指さして笑う中高生、凝視する子どもとその保護者の冷たい視線

学校

障がい児の姉妹だからという理由で、運動会やペア学習で安易に障がい児と組ませる。

クラスでトラブルがあると、確かめもせず子どものせいにされた。

中学校：少人数学級で他の生徒が受験。「休め」といわれ、給食も止められた。

医療機関

歯科医：うちではできないと放置され、紹介もしてくれなかった。

② 他者の意識しない不用意な言動（ここに障がい児・保護者がいることに気づかない）

- ・健常児が普通に話せて「話せてお利口ね」とほめられているのを見たとき

③ 保護者や当事者の心理への無配慮

- ・知人・友人が娘の話をして、障がいのある息子は話題にしない。
祖父母の誕生日プレゼント、娘の絵しか飾ってくれなかった。

3) 社会資源の不在／不足

- ・保育園、幼稚園の入園拒否
- ・フリースクールで受け入れ拒否
- ・やる気・愛情の感じられない支援学校教員
- ・病気になってもいける病院がない

4) 不安

将来：学校卒業後の居場所、親亡き後のこと（ほぼ全員）

親／本人が病気になった時

きょうだい児の負担

「親として息子への接し方が本当に正しいのかどうか。現在、私がしている対応が、将来の息

子へ悪影響となるのではないかということです。」

「生きることが嫌になりました。でも息子の寝顔を見るたびこの子のために強くならなければ
と思ひ直して今まで生きてきました。」「できれば一カ月でもこの子より長生きしたいです。」
「息子をこのように産んでしまったことで自分を責めています。」

4. 社会の課題

- ・手帳など申請手続きがわからない。どこに相談すればよいのかわからない
- ・大人になった時の「社会的居場所」が必要
- ・質だけでなく量的にも十分な（人員および施設数）施設がほしい

「健常者と障害者（児）が別々に育つ環境で、障がいに対する知識・認識が健常者に少ないと
思えるし、それもしょうがない状況にあると思う。「特別視」はそこから生じるものであり、
あまり見た事がないというのが正直なところだと思う。親は毎日一緒にいて、それが当たり前
前になっているため、一般社会とのギャップを感じてしまう。もう少し当たり前に交流があ
り「普通」と思える社会だったら、皆が当たり前の手助けしてくれて、社会の中で生活しや
すくなるのと思う。」

● 高次脳機能障がい

1 アンケート回答の概要

(1) 総数	17名		
(2) 年齢層	10代	1
	20代	1
	30代	5
	40代	6
	50代	2
	60代	1
	70代	1
(3) 性別	男性	16
	女性	1

2 回答例の中から

- (1) この世の中から早くいなくなって死にたいという気持ちになって、何回も自殺したけど死ねなかった（50代）
- (2) 世間の人（地域、会社）から疎外され、声をかけてくれず、通知もこない（40代、60代）
- (3) 病気のことを理解してもらえず、「障がい者のくせに肥満体と言われる」（40代、40代）
- (4) 妻が亡くなってからが心配、親が亡くなった後が心配（30代、70代、10代、40代、40代）
- (5) 就職できないことが辛い（30代、40代、40代）
- (6) 「高次脳機能障害になって26年目となり、年齢とともに今までできたことができなくなって私自身も年をとっていくので不安があります。」

- 本人より先に体力の限界がくること、先に死ぬことがないかと日々不安です」(70代、配偶者)
- (7) 大分県条例がどんなものか知りません。冊子も見たことがありません(30代)
- (8) 旅行にいきたい、でも勇気がいります(70代、60代)

● 重度心身障がい(重複障がい)・教育(児童)

◆ 重度心身障がい(重複障がい)

- ★ 体が大きくなるにつれ、母の負担がより大きくなること(体を抱える、入浴等)。
- ★ 重度障がいの人たちが受け入れてもらえる(通える)施設を増やしてほしい。吸引等をしなければいけない人は受け入れ場所が少なく、自宅で過ごすことが多い。同世代の人と接して色々なことを楽しんでこそ生きているあかしだと思う。
- ★ 高等部卒業後の進路—重度の身体障がいと知的障がいがあり、受け入れてもらえる施設が少ない。
- ★ 重複障がい者の入居できるところがあるのかさえわからない。心構えとなる入居状況や待機期間等の情報がほしい。
- ★ 重度心身障がい者で、医療的ケアが必要です。多機能型施設に通所でき、色々な方々にかかわり、社会とのかかわりができ、毎日を過ごすことができよかったですと思いますが、夜も預けることを考えなければなりません。安心して預けられる場所がなかなかありません。
- ★ 将来施設入所希望なら、今入所しないとできなくなると聞くことがよくありますが、親がみれる間は家だと思います。このように入れなくなるからという理由で入所することや親が老いて介護できないのに入れられない人もいるとか問題だと思います。
- ★ 全介助が必要な重度障害の子が二人います。ヘルパーさんに入ってもらい、自宅で同居していますが、次男が2週間ほど入院しました。二人とも夜中にパニック等があるため、長男を短期入所させる事はためらわれ、同じ病院に入院させることにしましたが、病院(入院)は完全看護のため、ヘルパー利用はできないと知りました。でも、現実的に全介助の上知的障がいを持つ息子達を、忙しくしているナースにまかせて病院を空ける事なんてとうてい不可能な事でした。
- ★ ショートステイのことですが、預けられる所が市内には一ヶ所もないので困っています。
- ★ 子供をみるのが自分しかいないので私が病気になったりした時にどうなるのが心配です。私が死亡した後も心配です。
- ★ 将来、親が老いたとき、親子セットで入所できる老人ホームがあったら。
- ★ 障がい者、老人ホームと別々でなく、最初から互いに入所できるような場所を希望。
- ★ 老人となった私と障がいを持つ息子が、同じ施設で生活し、必要なときに介助を受ける。公民館や保育所、学生寮、病院、買い物等が一つの建物内に入りいろんな人と交流しながら生活する、そんなことができたらいいなあ…。
- ★ 重度の知的障がい、重度のてんかん発作の人たちが、安心して暮らせる場があったら将来を託したい(専門医療と福祉がドッキングした建物・施設)
- ★ 重度障がい者もお風呂に入れるようなホテルなどあるとよいなあと思う。全介助ですので体重も増えてなかなか旅行などいけないので、そのような場所があれば行きたいし助かります。
- ★ 災害など緊急の時に誰が駆けつけてくれるのかもわからない。
- ★ しゃべれなくても、動けなくても、人としての尊厳を持って生きていけるような社会であってほしい。

- ★ 1ヶ月以上の入院をした際に、もうケアホームには戻れなくなるのではないかととても不安だった。

◆ 学校教育（保育園・幼稚園含む）に関すること

学校・園に関する記述は、106名（1月14日現在）の方からいただきました。まず、ほんの一部ですが、悲しかったこと、うれしかったことの記述を紹介します。

- ★ 小1の1学期、クラスの子にひどくつねられて以来不登校。現在全く学校に行っていない。「学校こわい」と言う。
- ★ 学校でいじめられ、登校できなくなり、市のフリースクールをお願いしたら、障がいがある子は初めてと、受け付けてもらえなかった。
- ★ 支援学校の教師に「～してほしい」と要望したら、暴言を吐かれ、息子の体にあざができたりして、証拠はないが、心も体も傷つけられ、学校への不信感で悩んだ。
- ★ 中3のとき、他の同級生は全員私立校を受験だったようで、学校を休めと言われた。親には連絡無し。担任に連絡し、出席させますと言ったら「親に連絡するのが遅れた。給食を止めたので、お弁当になるかも」と言われた。あまりにもひどい。
- ★ 校区の公立幼稚園から「責任を負いかねます。私立に行かれては」と入園を断られた。市内の私立幼稚園にも連絡したが、数園断られた。（その後行ける園が見つかった）
- ★ 子どもが年少になっていないので、保育園が決まらず、自分は妊娠中で親にも助けを得られない状況。しかし、子どもの受け入れ先がない。
- ★ 進級や進学のことを考えるときは、上にあがっていく喜びよりも、次はどうなるんだろうという気持ちの方が正直大きい。
- ★ 障がい児就学前相談のとき、同席していた小児科の医師が「残念ですが、息子さんは・・・残念ですが普通学級では・・・残念ですが・・・」と『残念』という言葉を繰り返した。息子は残念な子ではない。
- ★ 園にはとてもよくしてもらっているが、その子に合った適切な支援となると、人材育成、人数不足、大分県の仕組み作りの問題を感じている。
- ★ 障がい児のきょうだいだからといって、安易に運動会やペア学習などで障がい児と組ませないでほしい。きょうだいも「大切な一人の子ども」と見てほしい。
- ☆ 一緒に保育園で過ごした仲間だからと普通に声をかけてくれ、子どもだけで同窓会に行き、必要な手助けをしてくれたことに感謝。
- ☆ 支援学校に行っても、小学校のときの同級生は、今でも会うとよく声をかけてくれる。
- ☆ 地域の学童に入れていただいたことで、普通学校の子どもたちとも知り合えて、何かと今でも声をかけてもらったりする。
- ☆ 障がいは悪いことではないので、きちんと理解してほしい。そして、子どもたちにも正しく伝えてほしい。

～まとめとして～

内容は、いやだったことや不安なこととして、多かったものは、いじめにあってとてもつらい思いをした。そのきょうだいもいじめられた。というものや、子どものトラブルがあったときの学校（園）の対応に関しての不満。また、障がいを理由に、入りたい学校・園に入れないのでは、という進路の不安も多く、実際に、

入園・入学を拒否されたという記述が12名からありました。

望むこととしては、心の健康教育、障がい者理解など子どもへの教育を充実させて欲しいことが多く、合わせて職員の研修を望む声もありました。また、関連して、保護者・医療機関・学校の連携をという声や、もっと支援学校や施設のPR（HPなどで）をという声もありました。

そのほかに要望としては、エレベーターなどのバリアフリー、休日や放課後に預かる施設、普通校にも支援学校並みの経済的支援、普通クラスの支援員、支援学校を選択した者は就学时検診を自由選択に、支援学校の学習カリキュラムの見直しを。などです。

中には、学校の支援体制や対応に感謝している記述もあり、地域の学校・園に行ったので、周りの理解が得られたという意見も8名ありました。その体験から、地域の公立幼稚園を存続させ、2年保育の全国実施を。という声もありました。

感想としては、どの方もいっしょうけんめい書いてくださっており、条例作りに対する期待の大きさを感じました。また、殆どの方が、障がいの無理解から発生する差別をなくし、周りの声かけや支援を望んでおり、学校教育で障がい者理解をどう進めるかということや、ハード面も含めて、そのための支援体制や相談機関の充実が課題であると考えます。

